

TOHATSU

PARTNER

2009年1月1日発行／新年号

VOL.77



C O N T E N T S

- | | | | |
|--------------------------------|------------|----------------------|------------|
| ●年頭ご挨拶 | P2 | ●2008中部フローティングボートショー | P4~5 |
| ●Tohatsu America Corporation紹介 | P2 | ●ボート特約店「おおぜき」が展示会 | P4~5 |
| ●郡山市へ VC52BSを13台納入 | P3 | ●危機管理産業展 | P6 |
| ●豊橋市消防本部へ VC62BSを7台納入 | P3 | ●北京で中国防災展 | P6 |
| ●福島県富岡市へ全自動ポンプ付積載車納入 | P3 | ●関西トーハツポンプ会総会 | P7 |
| ●第21回全国消防操法大会 | P4~5 | ●トーハツポンプ中央会総会 | P7 |
| ●地域総合防災力展 | P4~5 | ●東北トーハツポンプ会総会 | P7 |
| ●2008横浜フローティングボートショー | P4~5 | ●船外機のアフターサービスを支援 | 裏表紙 |
| ●関西フローティングボートショー | P4~5 | ●駒ヶ根工場へ連日の見学者 | 裏表紙 |



トーハツ株式会社
代表取締役社長 金子 満

平成21年度 年頭ご挨拶

平成21年の輝かしい新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

日頃のパートナーをご愛読頂いている皆様におかれましては新春を迎えられ夢の実現できる幸福な年になるよう期待に胸をはずませておられることと存じます。

年頭にあたりましてひとことご挨拶を申し上げます。

さて、昨年は自然災害、特にミャンマーでのサイクロン、中国における四川大地震、日本の東北宮城地震が発生し、甚大な被害を及ぼしました。自然災害の力の大きさを改めて認識させられましたが、その後被害を受けられた方々は大きな被害にもめげず、力強く立ち上がり復興が進み、新しい年を迎えられた事を考えますと感銘を覚えます。

一日も早い完全復興を願うものであります。

一方、昨年はアメリカのサブプライムローン問題の再燃に端を発した百年に一度と言われる金融危機が発生しまして、9月頃から深刻化し景況感が急激に悪化してまいりました。

米国ドルの信認をゆるがす、世界同時不況の様相を呈してきており、現在もその真つただ中での厳しい年明けとなりました。

これらの事象は性格が異なるものであり、同列に比較をできるものではありませんが、実際に起こるものであり、起こった時に如何に被害を最小限に留められるか、如何に日頃の備えが大切かを教えられた一年でもありました。

新しい年を迎え、自然災害の少ない平穏な年であるよう祈りつつも、景気後退局面の底打感がいつになるのか大変見極めの難しいところでございます。

このような状況の中で、弊社は設計から製造、販売までのプロセスを見直し、時代の変化に適合した地球環境に優しい製

品の供給を進めてまいりました。

一時的な原油価格の高騰は、落ち着きを取り戻し、材料の鋼材等も需要ピークを超えたことから変化が見られますが、製造メーカーのおかれた環境は厳しく、多くの変化はないであろうというのがおおかたの見方でもあります。

おかげさまで弊社の船外機は昨年生産累計250万台を達成することが出来ました。又、消防ポンプでは時代のニーズにより開発した業界初の4ストローク消防ポンプが好評を頂いておりまして、これらの記録、開発の実現は弊社製品をご愛顧頂いている皆様、お取引様各位のご支援によるものと改めて感謝を申し上げます。

大変厳しい環境ではありますが、製造メーカーを取り巻く背景を読み、お客様のニーズをお聞きする中で、更にご満足頂ける製品とサービスを今年も提供してまいります。

又、将来展望にも目をむけ、ますます厳しくなるであろう環境保全、省資源化を最重要視した先行研究も更に加速していかねければなりません。

生命と財産を守る消防ポンプ、海の魅力を満喫できる船外機が更に全世界の人々の身近なものとなり、お客様に安心・安全・満足・信頼を与えるというメーカーの責任を果たしてまいります。

「スピード」「チャレンジ」「ヒューマン」のキーワードをもとにトーハツは今年も変化を続けます。

本年も皆様方の倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、新しい年が皆様、並びにご家族様にとりまして良い年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



Tohatsu America Corporation 紹介

Tohatsu America Corporation (以下TAC)は、米国全土とカナダを販売エリアとしたトーハツ船外機の販売会社です。

北米での船外機販売は80年代初頭からはじまっておりまして、商社経由の販売でした。2002年2月からは、トーハツの子会社として運営が開始されました。ケネディの暗殺事件で有名なダラス近郊のFarmers Branch市に本社を構えています。ダラスはアメリカ合衆国テキサス州の北部に位置する商工業都市です。エルム川とウェスト川の両河川の合流地帯にあり、古くから交通の拠点として発展し、今日でも金融、経済の中核として機能しています。

南北戦争直後の米国北部で起こった食糧危機に対応するために、テキサスのロングホーンと呼ばれる牛を1回3000頭単位で、テキサス州サンアントニオからカンサス州メダリオン(鉄道に乗せるため)まで合計何万頭もの牛を運んだのはローハイド

という西部劇で有名です。ダラスのツインシティであるフォートワースは、そのローハイドの通過都市の中でも大きい

ストックヤードがあり、まさに西部劇の中心のような所です。TACではオフィスに併設された倉庫から年間約15000台の船外機を出荷し、日本人駐在スタッフ3名を含め計25名で販売エリアをカバーしています。台風、早魃といった自然災害、サブプライムローン問題、金融危機といった逆境の中、スタッフ一丸となってトーハツ製品の拡販に努めています。

今後は可搬ポンプの取り扱いを行う可能性もあり、北米におけるトーハツブランドの更なる浸透が期待されています。また、海外市場の重要性は年々高まっており、営業担当者は出張時に遠く離れた異国の地で心細い思いをすることもあります。米国内においてはTACという拠点の存在が心強くあります。

(防災営業部/宮川)



福島県郡山市へ 「VC52BS」を 13台納入



福島県の郡山市消防団13分団の更新配備として、去る10月2日、VC52BSポンプ13台が納入され、同日、市内のカルチャーセンターで関係者出席の下に配置式が行われました。

同市消防団員の防災意識は高く、配置式後のポンプ合同取り扱い説明会では様々な質問や意見が出され、その熱意には係員も圧倒されるものがありました。

ご採用頂いた同市の消防関係者、及び販売にご尽力頂いた福島消防資材(株)様、並びに和田自動車(株)様、大変有難うございました。

(防災東北/中島)



愛知県豊橋市消防本部へ VC62BSポンプを 7台納入

豊橋市消防本部では、かねてより2008年度のトータツ消防ホンプ「VC62BS」7台の採用を決定しておりましたが、去る10月28日、無事納入され、それに伴う受け入れ式が消防関係者多数出席の下、同市中消防署で行われました。



この度の納入は、保有ポンプの老朽化に伴う更新で、機動力の向上と迅速な消防活動を図る目的で行われたものです。因みに納入ポンプに装備された主な新機能は、自働吸水システム、冷却水還流装置、オートパワーオフ、オートチョーク始動、オプティバルブ、オイルレスバキュームポンプ等々で、受け入れ式後の消防団員への取り扱い説明会でも、これらの機能を重点的に説明。団員から多くの賛辞を頂きました。

VC62BSをご採用頂きました同市消防本部様には、あらためて厚く礼申し上げます。

(防災中部・豊橋/桜井)



福島県 富岡町へ

全自動ポンプ付積載車納入

東北は阿武隈山地と太平洋との間に位置する福島県富岡町へ、去る10月30日、4ストロークポンプVF63AS-T搭載の「小型全自動ポンプ付積載車」が特約販売店(株)磐水社を通して納入されました。

4ストロークポンプ採用については、低排気ガス・低燃費・低騒音、車感覚の操作性や自働吸水機能などに注目していた同町の意向で、この度の納入になったものです。

交付式後、消防団員への取り扱い説明を終えてからのテスト



ト運転では、エンジン音の静粛さに関係者一同驚きの声を上げていました。

同町関係者、及び販売にご尽力頂いた(株)磐水社様には厚くお礼申し上げます。

(防災東北/中島)

第21回全国消防操法大会

首位二転三転!

最後は「VC72PROⅡ」で 福岡市西消防団が初の栄冠

成績	県名	消防団名称	使用ポンプ
優勝	福岡県	福岡市西消防団	VC72PROⅡ
準優勝	長崎県	壱岐市消防団	VC72PRO
同	高知県	高知市消防団	他社
同	長野県	上田市消防団	VC62PRO
優良賞	山形県	西川町消防団	VC72PRO
同	茨城県	大子町消防団	VC72PRO
同	鳥取県	日野町消防団	他社
同	秋田県	三種町消防団	他社
同	宮崎県	日之影町消防団	他社
同	埼玉県	小栗野町消防団	他社

秋恒例の第21回全国消防操法大会が、去る10月12日、爽やかな晴天のなか東京ビッグサイト屋外展示場で開催されました。今年、主催者・(財)日本消防協会の前身である大日本消防協会が設立されてちょうど80周年。記念すべき意義ある今大会を迎えて、同協会・片山寅之助会長の力強い開会の挨拶でスタートしました。今大会は、屋内展示場で同時開催された「地域総合防災力展」も加わって、両会場とも各地域から応援に駆けつけた来場者で賑わい、大会を大いに盛り上げました。

さて競技の方では、若い力と技がぶつかり合う白熱した展開を見せ、午前中は山形県西川町消防団が87点の高得点を上げて首位の座を堅持。「今までの中で一番うまくできました」と団員も少し興奮ぎみに語るなど、午後の出場チームには少なからずプレッシャーを与えました。

午後の競技では、首位チームが目まぐるしく入れ替わる波乱含みの中、長崎県の壱岐市消防団が「VC72PRO」を使用して90点の高得点を獲得。これで決まりかと思われましたが、最後の最後、最終出場の福岡県福岡市西消防団がトーハツから新発売の「VC72PROⅡ」を擁して最高得点92点(41.34秒)をマークし逆転優勝。何ともドラマチックな幕切れでした。

また同時開催された地域防災力展では、全国各地の特産販売コーナーや消防団紹介コーナー、消防機器展示コーナーなどが並び、盛大に行われました。トーハツ・ブースには、操法大会でも好評な新型モデル「PROⅡ」や環境に優しい4ストロークポンプ「VF63AS/VF53AS」に多くのお客様が来場されました。

一方、競技終了後に行われたエキジビション演技では、今大会6位に入賞された茨城県大子町消防団の方々が昔ながらの手引きポンプによる消火活動を披露。かつて消火活動が、いかに大勢の労力と団結力を必要としたか、窺えることのできる演技でした。

なお、今大会の主な成績は別表の通りです。みごと逆転優勝を果たされた福岡市西消防団の皆様、誠におめでとうございます。またトーハツポンプで出場された全国の消防団の皆様には、誌面を借りて厚くお礼申し上げます。
(防災営業部)



各地で秋のフローティングポートショー開催

「2008横浜フローティングポートショー」
IN 横浜ベイサイドマリーナ
「TF-250SC」の魅力をアピール

秋恒例のマリンイベント「横浜フローティングポートショー」が、去る10月10日から12日までの3日間、爽やかな晴天下、横浜ベイサイドマリーナで催されました。行楽シーズンたけなわとあって例年並の来場者が期待されましたが、今年は客足が鈍く前年比58%とほぼ半減。しかしトーハツでは、予め実施したDM作戦が功を奏してDM持参の来場者が前年比128.5%と逆に大増加。事前のPRが明暗を分けたようです。

トーハツでは、フィッシング・ファンを主ターゲットにTF-250SC艇を出展。来場した多くのユーザーは、一様に同艇の広いアフトデッキや凹凸の少なさなど使い勝手の良さを絶賛。ロングセラー艇TF-250SCの面目躍如といったところです。一方エンジン関係では、TLDIと4ストロークの違いに興味を示すユーザーが多く見られた他、燃料高騰の折から燃費性能にはとりわけ敏感に反応していたのが印象的でした。今回は混雑が比較的少ない分、ユーザーとのコミュニケーションを余裕をも

って行えたため商品の魅力を充分にアピールできました。今後の繋がりや商談に結び付く可能性もあり、有意義な3日間でした。
(マリン課/石丸)



関西フローティングポートショー
三連休で盛況

恒例の関西フローティングポートショーが、秋本番を迎えた去る10月11日から13日までの3日間、新西宮ヨットハーバーで開催されました。初日、天候は優れなかったものの三連休の行楽シーズンとあって来場者も順調な入り。昨年度を凌ぐ6,814名の入場者を記録、盛況を極めました。

トーハツでは、海上展示ポートとして直噴船外機MD115AをセットしたTF-235IV SC艇を投入。試乗に訪れたユーザーには、2サイクル直噴船外機のワフルな走りを体験して頂きました。

(マリン関西/三好)





地域総合防災力展／全国消防操法大会 東京ビッグサイトで同時開催

秋たけなわ。晴天に恵まれた東京ビッグサイトで、去る10月11日・12日の両日、(財)日本消防協会主催による「地域総合防災力展」が開催され、12日、同時開催された第21回全国消防操法大会とあいまって全国から消防団員など大勢のユーザーが来場。出展したトーハツ・ブースは大盛況ぶりでした。

トーハツの主な出品品は、多目的積載車(主装備品:4ストローク消防ポンプVF53AS/TWL型昇降リフター/浄水装置/大型投光器1000W/水槽650ℓ)、軽四駆デッキバン消防車、ニューモデルVC72PRO II、VC53AF(4ストロークエンジン)、大型投光器、そして環境に配慮したオイル吸着剤スノムなどで、見学者から好評を頂きました。

とりわけ第21回全国消防操法大会開催と重なった12日には、同月新発売の「VC72PRO II」目当ての消防団員が興味津々で大挙して来場。係員は質疑の応対に終日追われました。また一方では、操法大会前日の11日より各地域から来られた消防団のサービス面でのサポートを実施。競技に使用のため各地からダンボール箱詰め送られてきた可搬消防ポンプの荷解き後、燃料補給からエンジンオイルの補給・調整まで入念なメンテナンスを行い、いざ本番へ。

操法大会当日は、晴天の中盛大な開会式が行われ、各消防団の選手の方は日頃から日夜練習をしてきた成果を発揮するためにコースへ整列し競技を開始。また応援団からも熱い声援、掛け声が発せられ張り詰めた雰囲気でありました。競技終了後、選手の方々は感極まり涙ぐむ方や団員同士で握手する方がおり見学している方も一安心。

トーハツとしても前日からのサービス支援で当日エンジンがかかるか、吸水はできるのか、水は出るのか心配で1チーム、1チーム競技が終わるたびにホッといたします。

消防団の皆様方におかれましては本当にお疲れ様でした。
(防災中央/志津川)



ボート販売店

(有)おおぜき

桑名市で展示会



桑名市でボート販売店を営む(有)おおぜきが、去る9月13日・14日の両日、秋のボート展示会を開催。地元有力販売店「おおぜき」の展示会とあって、大勢のユーザーが訪れました。

トーハツでは、ご当地ユーザーのニーズに応えるべく人

気艇TF-250SCをはじめTF-21ST、また船外機では環境に配慮したMFS30Bなどを展示しアピールしました。中でも評判を呼んだのがMD115Aを搭載したTF-250SCのセット艇で、スタイリング、広いデッキスペース等々使い勝手の良さに高い評価を頂きました。

また、過去に同店からトーハツボートの購入実績を持つユーザーも多数来場。歓迎の心を込めてユーザーと歓談する同店社長の会話に、暖かい信頼関係が積み出ているのを感じました。これから



もユーザーとの信頼の絆を更に深めて益々発展して頂きたいと思えます。

同店の社長をはじめ奥様、同店スタッフの皆様、大変お疲れ様でした。
(マリン中部/菊谷)



開催!

中部マリン事業協会主催による“中部フローティングボートショー”が、去る10月4日・5日の両日、愛知県蒲郡市のラグーナ蒲郡ラグナマリーナで開催されました。秋の行楽シーズンを迎え、かなりの人出が予想されましたが、逆に前年比で若干減少傾向にあるようで、ちょっと心配です。

試乗を繰り返すフィッシング・ファンも・・・ 2008中部フローティングボートショー

さてフローティングボートショーの一番の魅力は、実際にお気に入りボートに乗り、走りのフィーリングを実体感できる点にあります。ボートやエンジン選定に迷いが生じたら、まずは1度ならず2度3度と試乗して見る必要があります。

トーハツでは来場者の期待に応えられるよう、試乗用ボートにロングセラーのTF250SC/MD115Aのセット艇を投入。文字通り2度3度繰り返し試乗するユーザーが続出して、大変ご好評を頂きました。有難うございます。

(マリン中部/平野)



“危機管理産業展2008”開催

〔NHKが取材し放映!〕

災害用資機材製品を一堂に集めた“危機管理産業展2008”が、去る10月17日(水)から19日(金)までの3日間、東京ビックサイトで開催されました。同産業展は昨年同様に“アスペクト対策環境展”及び“テロ対策特殊装備展”と同時開催されたこともあって、期間中の入場者は57,792名を記録する大盛況ぶりでした。

災害用資機材製品にも力を入れるトーハツでは、救助用資機材(探索機器)や感染症対策資機材(アイソレーター)などを中心に展示。更に報道関係の取材協力もあってセキュリティ産業新聞にはトーハツ製品の紹介記事が掲載され、またNHKテレビ「おはよう日本」という番組では、同展出展社数314社

中トーハツ・ブースのみを“プロが扱う資機材を展示”と紹介されました。“トーハツ”の社名放映こそ叶わなかったものの4ストロークポンプ「VF63AS」が映っていたため、多くの関係者から“テレビ見たよ”とか“探したよ”との声をかけて頂き、かなりのPRになったようです。

一方、赤外線カメラ「熱画像直視装置ナビゲータN・

トーハツは

救助用・感染症対策資機材を出展



50」が、米国の消防訓練VTRで放映された他、「熱源センサー(残火処理用)」が「Jレスキュー」誌に記事掲載され、また片手で持てる超小型・高度水中探査装置「ビデオレイ(ROV)」もデモ依頼を請けるなど大変好評でした。とりわけ「STREAMライト」及び「GERBERレスキューナイフ&マルチツール」は、即日受注を頂き大成功裡に閉幕しました。

ご来場頂きました特約販売店の皆様、誠に有難うございました。

(防災営業部 業務課/友田)

中国防災展(第12回国際消防設備技術交流展覧会)が、去る10月28日から31日までの4日間、北京全国農業展覧館で開催され、国内外200社を上回る企業・団体が最新の製品を展示。トーハツも前回に引き続き可搬消防ポンプ4機種を出展しました。

2007年後半までは中国経済の成長も右肩上がり。不動産市場も活況で、バブル経済の様相を呈しておりましたが、北京オリンピック終了後は過熱した経済や不動産市場がアメリカ発の金融危機に端を発した世界不況の波を受け、不動産価格は大幅に下落し、今後の経済成長は鈍化するものと思われま

す。そうした中で中国の消防・防災市場は、2008年5月に発生した四川省大地震の甚大な被害を教訓に、今回はレスキュー関連品目の取り扱いが多数見られました。また国内外のメーカーも趣向を凝らしたディスプレイで、来場者の視線を集めていました。

「中国は1年間訪問しないだけで、あちこち古いものが新しいものにとって代わる」とよく言われますが、今回2年ぶりの北京訪問で、また以前にも増して真新しい

高層建築物が増え、一方、会場内の各社展示スタンドなども、従来までの中国とは思えない非常に垢抜けしたもので、変化・成長の速さを感じさせる展示会でした。

(防災営業部海外課/田澤)

中国防災展2008に トーハツが可搬消防ポンプ出展



平成20年関西トーハツポンプ会総会が、去る6月23日・24日の両日、岡山市のホテル「オークラ岡山」で開催されました。会場内には新発売の「V72PROII」が展示され、総会に出席した会員諸氏の間で早々から同ポンプの拡販話しが囁かれていました。



総会は、冒頭のトーハツ金子社長の挨拶でスタート。続いて同ポンプ会の三好会長から感謝の辞が述べられ、拡販への意気込みが示されました。また質疑応答では、ポンプ操法大会や4ストローク

関西トーハツポンプ会が総会

ポンプの拡販などに関わる白熱した意見が交わされ閉会。恒例の夜の懇親会では、和やかなムードで歓談。親交を深めていました。

翌日は絶好の行楽日和。ゴルフ組は岡山カントリークラブ「桃の郷コース」で、一方観光組は岡山城や後樂園の散策など2組に分かれ、仕事を忘れて



日頃の疲れを癒しました。

同ポンプ会・三好会長をはじめ、特約販売店の皆様、ご多忙中ご出席いただき誠に有難うございました。
(防災関西/山口)

東北トーハツポンプ会では、去る10月23日・24日の両日、秋季総会をトーハツ駒ヶ根工場内で開催。終了後は同工場を見学し、各製造工程などの知識を深めました。

総会は、同会の鳴海会長〔(有)丸栄消機社長〕の挨拶で開会。続いてトーハツ(株)金子社長、小山防災営業部長の両氏の挨拶に引き続き同営業部青山次長から販売計画などの資料説明があり、その後、諸問題に関する討議が行われました。各会員からの報告として最近の市町村合併に伴う厳しい販売状況や各地域の現状報告などがあり、活発な意見交換が行われました。

また翌日は、同工場・田中工場長の案内で各製造工程などを見学。その後は多目的車両の見学と説明会が実施されました。今回の総会はかなり厳しい日程でしたが諏訪大社にも参拝。また養命酒工場にも立ち寄ることができて全員ご満悦。ただ途中で観光バスのドアが開かなくなり、窓から緊急脱出するハプニングに見舞われたのには驚きましたが、全員無事で何よりでした。皆さん大変お疲れ様でした。

(防災東北/中島)



トーハツポンプ中央会 伊香保温泉で秋季総会

トーハツポンプ中央会では、去る11月13日・14日両日、群馬県の伊香保温泉「木暮ホテル」で秋季総会を開催。開会前に先ずは腹ごしらえしようと、温井会長の提案で出席者全員「水沢うどん」

で昼食、それから会場へ向かいました。会場の木暮ホテルには、「全国操法大会VC72PROII 優勝」のポスターが掲げられ各会員を迎えました。



総会はトーハツ金子社長を迎えて、様々な問題を討議。意見が交換されました。とりわけ景気後退に伴うポンプ拡販問題、民需物件の獲得増への方策などが中心に話し合われました。また、各会員から日頃寄せられる要望事項も議題に上り、今後の厳しい経済状況の中で、如何に活路を切り開いて行くか、なども真剣に討議されました。なお総会終了後は、会員共々温泉でたっぷり鋭気を養いました。

会員の皆様には、遠路ご出席を賜り誠に有難うございました。

(防災中央/田中)



東北トーハツポンプ会 秋季総会を兼ね 駒ヶ根工場を見学



船外機のアフターサービス支援へ

～新たな船出～

トーハツサービス室では、業務改革スローガン「スピード・チャレンジ・ヒューマン」を旗印に、市場側船外機のアフターサービス活動を直接支援する活動を開始しました。サービス技術教育会、拡販を支えるサービスキャンペーン、代理店様、販売店様、またお客様と直接顔を合わせ市場の声をサービス活動に反映すべく3現主義の実践など、市場目線の活動を展開しています。

2008年度は国内・海外21箇所での上記活動を展開し、代理店様、販売店様とのサービス活動の共有をはかり、来年度に向けたサービス支援のベクトル合わせも一定量計ることができました。また各受講地では、受講者の真剣な眼差しとトーハツへの熱い思いの中、講師、受講者とも、時間も忘れるほどの白熱した講習

会がくりひろげられました。

2009年度の国内では、代理店様、販売店様の販売後押しを目的とするサービス講習会を各地区2回開催し、修理スキルの向上、サービス機材の充実、顧客メンテナンスの管理など、サービス全般の支援をしております。一方海外については、販売伸張市場に重点を置いたサービス教育の推進(教育、機材、顧客管理)、いち早い商品問題の対応、そして新規市場へのサポートをしております。

世界的に浸透する情報の多様化「ユビキタス社会」にマッチしたサービス資料のWeb開示を、国内・海外ともに今年も積極的にアップしております。

〔講習会実施地域及び国々〕

札幌、仙台、沖縄、アメリカ、ベネズエラ、メキシコ、チリ、シンガポール、インドネシア、アルゼンチン、ブラジル

〔サービスキャンペーン地域及び国〕

利尻、増毛、焼尻、佐賀、宮城、鹿島、勝浦、横須賀、伊勢、三浦、インドネシア



東北



アルゼンチン



シンガポール



インドネシア



利尻島



チリ



ブラジル



ベネズエラ



三浦

(サービス室/藤田)

最新設備の駒ヶ根工場へ

連日にわたり見学者

晩秋の好天が続いた11月7日・12日・13日・14日の4日間、各地域の消防団や消防関係者が連日のようにトーハツ駒ヶ根工場へ見学に訪れました。訪れたのは、同工場に近しい伊南消防協議会をはじめ、埼玉県消防協会の越谷・八潮支部、神奈川県藤沢市消防団、(社)相模原市防災協会、そして長野県松本消防協会の計5団体様です。

同工場の歓迎を受けられた後、船外機の組立工程、出荷前の製品が並ぶ倉庫から見学。その広さに皆様様に驚かれた様子でした。この後はメインの見学コースであるポンプ工場へ移動。丁度4ストロークポンプのVFが製造されている日程に合致。組立てラインから試運転場までVFを中心に見学して頂きました。船外機の組立てを見た後ということもあって船外機そっくりのVFのデザインが、とりわけ皆様の目を惹いたようです。この後、VF、自動中継ポンプ、多機能型積載車など、屋外で行われた実演デモを見学。エンジンの静粛性や取り扱いの容易さなど、VFの高性能ぶりに大きな関心を示していました。

見学終了後、同工場内の防火管理体制について質問を頂きましたが、普段から消防・防災に携わる方々だけあって、その防災意識の高さに逆に身が引締まる思いでした。

そして最後は、一面紅葉に染まる駒ヶ岳と工場をバックに記念撮影。皆様大変満足の態で帰路につかれました。今後益々のご活躍を祈念申し上げます。

(防災中央/伊藤)



発行

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢3-5-4
TEL (03) 3966-3116 / FAX (03) 3966-0090
トーハツ株式会社
トーハツパートナー編集局
編集兼発行責任者 若林 弘/小山 将